



夏秋蠶十餘萬貫増か

繭價高に各地共掃立數増加

縣統計課の豫想

九月二十五日現在の夏秋蠶豫想收繭高は百七十六萬三千七百五十五貫、内白繭種百七十五萬九千九百八十一貫、黄繭種三千七百七十四貫にして前年收繭高百六十四萬四千七百七十六貫に比し十一萬八千九百七十九貫乃ち零割七分二厘の増加を示した、而して以上の如き増加を見たるのは春蠶に於ける

繭價の高價持合に依り夏秋蠶に於ても好調なるべきを見越し掃立數量を増加したるに依るもので一部地方に病蠶の發生があつたにかゝはらず、尙斯の如き結果を見るに至つたものである、之れを郡市別にみれば次の如し

種	豫想		前年	前年=比シ増減(△印)
	種	高		
水戸	一、二七四	一、二七四	一、〇一二	二六二
東茨城	一四四、〇〇八	三九四	一四四、四〇二	四、三七七
西茨城	八五、九五三	一	八五、九五三	一〇、七五六
那珂	四七、四一八	一五三	四七、六一二	四一
久慈	三九、六六五	二〇四	三九、八六九	△二、五七五
計	一、二七四	一、二七四	一、〇一二	二六二

種	豫想		前年	前年=比シ増減(△印)
	種	高		
多賀	八、一七三	一五	八、一八八	△五八二
鹿島	八〇、九四〇	一	八〇、九四〇	三、二一二
行方	六六、三二五	一	六六、三二五	五、四六五
稲敷	二二一、三三〇	二五一	二二一、五八一	一三、四六八
新治	二八六、二七六	六一四	二八六、八九〇	四、五四四
筑波	二五四、五七八	一、八八一	二四二、一一九	一四、三四〇
眞壁	一四三、八二三	一	一四三、八二三	一七、五一五
結城	二四三、〇九二	三七	二四三、一二九	三六、一七六
猿島	六九、六七四	一	六九、六七四	一、九五一
北相馬	六七、四五二	二二五	六七、六七七	一〇、一一一
合計	一、七五九、九八一	三、七七四	一、七六三、七五五	一、八、九七九

全國で約四十萬貫増

尙ほ同日現在農林省設計課の課査による全國の夏秋蠶豫想收繭高は總數三千八百二十八萬七千四百四十貫(内白繭三千八百二十三萬千七百七十貫、黄繭五萬五千九百七十貫)にして前年の夏秋蠶收繭高三千七百八十九萬五百二十七貫に比し三十九萬六千六百十三貫(一分)の増收を示した、蓋し本年の夏秋蠶は桑園整理及雪害等に基く桑葉量の減收を見越し掃立を減少したると晩秋蠶期に天候不順なりし爲病蠶の發生を見たるものありしとに因り收繭高の減少を豫想せらる、地方相當ありしも其の他の地方に於ては繭價高に刺戟せられて掃立を増

加したるものありしと天候極めて適順にして蠶兒の發育良好なりしたため收繭高の増加を豫想せられ結局全國的には前年に比し收繭高の増加を見るべき豫想である。

尙参考の爲最近五箇年間に於ける收繭高を掲ぐれば左の如し

年	繭高
昭和六年	四四、四〇五、二三〇貫
昭和七年	四三、一五八、八五九
昭和八年	五一、一四四、五三九
昭和九年	三八、七四九、三三一
昭和十年	三七、八九〇、五二七
昭和十一年豫想收繭高	三八、二八七、一四〇